

学力向上に係る効果的事例

【松伏町教育委員会】

1 本校の研修課題

主体的に学習に取り組む意欲を育む指導法の研究

～言語活動の充実による基礎学力の定着を目指して～

今年度、県教育委員会指定の「地域に応じた学力向上推進モデル事業」の取組を行い、研修課題のもと家庭学習の充実・習慣化を目標に学力向上の取組効果を検証していく。本校の課題としては、埼玉県学習状況調査で比べると地理・理科「第一分野」・英語の「読み」「書き」が低く、理科は昨年から低い傾向が続いている。また、生徒アンケートでは、「ふだん家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。」において、予習・復習については県の平均より26ポイント、試験への備えについては14.4ポイントも下回っている。そして、「学校の授業時間以外に、1日だいたいどのくらい勉強しますか。」については、1時間未満が全体の61.5%におよび、学習時間の確保ができていないことが分かる。

2 家庭学習の充実・習慣化として

地域の教育力を活用した学力向上のために、①地域のアシスタントティーチャーの活用、②ボランティアによる読み聞かせの継続、③本校独自の学習プリントを用いての「赤ペン先生」の活用がある。

※10月9日より業者と提携して、本校独自の家庭学習プリントを表裏1ページ、毎日継続。

教科は本校の課題である3教科（社会・理科・英語の順）で行い、各自採点をして翌日提出。赤ペン先生はそのチェックを行い、未提出の生徒に対して昼休みに学年担当と協力して、再学習の監督にあたる。

1・2年生の「赤ペン先生の活用による家庭学習」の方法

生徒が毎日表裏1枚のプリントを家で行い、○付けと点数記入を行う。（原則は月～土曜日）

↓
登校後、クラスの係がプリントをケースに回収して、朝の会後にクラスの文書BOXへ提出。

↓
給食までに赤ペン先生がチェックしコメントを添え一覧表で担任が見てわかるようにしておく。

↓
学習状況をPCへ入力（提出の有無・点数）する。

↓
昼休みに未提出の生徒を集めて、学年の教員と共に再学習の監督を行う。

↓
チェックしたプリントと次回のプリントを、赤ペン先生が各クラスの文書BOXへ配布する。



3 学力向上に向けた経過と課題

- ① 【家庭学習の実践】〇〇中学校独自の家庭学習プリントを毎日継続させるシステムを実践した。そして、従来の方法提示・個人裁量にかわり、赤ペン先生を活用して内容の明確化・きめ細かいケアをしたことで、習慣化の兆しが見えている。

《課題》赤ペン先生活用の費用、手立てなど家庭学習の習慣化に長期的なビジョンを持って、家庭の協力を得ながら取り組んでいくことが挙げられる。

- ② 【アシスタントティーチャーの活用による、3年生学習会】 学校全体として全職員が対応する3年生習熟度別学習会は、アシスタントティーチャーの充実もあり、生徒の学習に取り組む姿勢の向上、教員の教科指導の充実が見られた。改善を重ねながら生徒の学習のつまづきを克服し、学習方法・学習内容の定着をさらに図る。また、生徒一人一人の学力を保障し、習熟度に応じた丁寧な学習指導を行う。

《課題》赤ペン先生同様、講師の確保や費用、時間の調整などと共に、学習意欲を向上させ、自ら家庭学習の充実へと移行させることが挙げられる。

